

# アメリカ航空産業の現状と今後の展望

～パンデミックの影響からの回復及びその後の課題と展望～

執筆者    ワシントン国際問題研究所    次 長    福原 和弥

一般財団法人 運輸総合研究所    ワシントン国際問題研究所    発行



## 序

運輸総合研究所ワシントン国際問題研究所では、2003年から毎年、定点観測的に、米国航空産業に係る様々なデータ分析を通じて、その現状と今後の展望について調査報告をしてきている。本書では、2022年の状況を中心にまとめている。

2020年から本格的に流行した新型コロナウイルス感染症によるパンデミックの影響により、世界の航空市場は大きな影響を受けたが、アメリカの航空市場は、他の地域と比べて、国内市場・国際市場ともに比較的早い回復が進み、2022年においては、概ねコロナ前の水準に需要が回復したとすることができる。ただし、国際路線をみると、地域による渡航制限解除のタイミング等の違いもあり、アジア路線を含むパシフィックについては、コロナ前の水準に届いていない状況にあるなど、様々な課題が存在している。

本報告では、アメリカ航空産業のパンデミックからの回復状況について、市場別・キャリア別にデータを用いて解説する。最後に、同国における航空産業の競争環境や消費者保護政策の現状についても紹介する。これらを通じて、アメリカ航空産業における今後の課題と展望を示したいと思っている。

本調査が、読者各位の業務・研究の一助となれば大変な幸いである。

最後に、本書の作成を含め、当研究所の活動に対して長年にわたり全面的にご支援を頂いている日本財団に対し、深く御礼を申し上げます。

2024年3月

運輸総合研究所　ワシントン国際問題研究所　福原　和弥



# 目次

## 米国旅客航空企業の動向

<b>1. 米国航空輸送需要の動向</b> .....	<b>2</b>
(1) 米国旅客航空企業全体.....	2
(2) ネットワークキャリア.....	7
(3) L C C.....	15
<b>2. 米国旅客航空企業の供給量の動向</b> .....	<b>19</b>
(1) 米国旅客航空企業全体.....	19
(2) ネットワークキャリア.....	22
(3) L C C.....	31
<b>3. 米国旅客航空企業の損益状況</b> .....	<b>35</b>
(1) ネットワークキャリア.....	36
(2) L C C.....	62
<b>4. 航空企業の収入構造の分析</b> .....	<b>73</b>
(1) 運賃の適正化.....	73
(2) 付帯サービスの有料化.....	77
(3) 国際市場の強化.....	79
<b>5. 航空企業のコスト構造の分析</b> .....	<b>81</b>
(1) 人件費.....	81
(2) 燃料費.....	85
(3) リージョナルキャリアへの委託.....	89
(4) コスト構造の分析.....	91
(5) 今後のコスト削減の可能性.....	97
<b>6. 今後の展望</b> .....	<b>99</b>
(1) コロナからの回復.....	99
(2) 今後の課題.....	99
(3) 米国航空産業の競争環境及び消費者保護政策.....	100